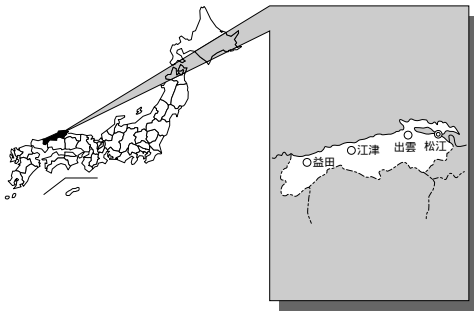


# 土木紀行



## 益田・高津「高角橋」改修の歴史 万葉の時代「人丸社」につづく道

### 島根県益田市

#### 歴史と文化が薫る町「益田」

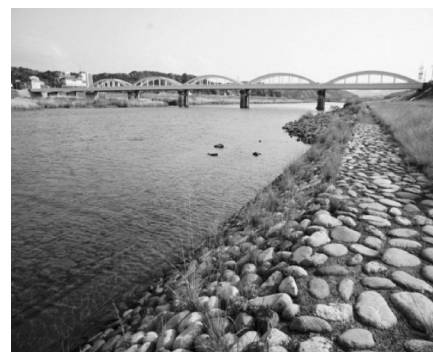
日本海に面し中世の城下町として栄えた「益田市」は、島根県と山口県の県境に位置する町です。この地は、鎌倉時代から戦国安土桃山時代の約400年間もの長きにわたって納めた豪族益田氏の本拠地で、中世の城下町の町割り、港湾遺跡や雪舟ゆかりの寺社等の歴史遺産が数多く残っています。

奈良時代、万葉集第一の歌人「柿本人麻呂」の生誕および終焉の地がここ益田といわれ人麻呂没後、付近の住民がその神徳を偲び社殿を建て祀ったのが始まりとされる「高津柿本神社」をはじめ多くの古跡が残されており、歴史文化の薫りのする町です。



高津川河口付近

また、「水質日本一」の高津川は、町の中央を貫流し沿岸の地を潤し、豊かな川の恵みを施し日



高角橋（下流左岸より望む）

本海へ注いでいます。高津川は釣り人が選ぶ「天然アユがのぼる100名川」に選定されており、1級の「姿、風味」のよいアユが育っています。

#### 地域に親しまれる高角橋

高角橋の名は、高津川に最初に架けられた明治25（1892）年の木造橋の時代に付けられたものです。それまで渡船によっていた柿本神社の参道が橋でつながり往来の絶えない賑やかな通りとなりました。

毎年人麻呂の誕生日である陰暦の8月1日を祝



高角橋（柿本神社より望む）

って行われる「<sup>はっさくさい</sup>八朔祭」  
は、古式豊かな<sup>やぶさめ</sup>流鏝馬  
神事が高角橋のたもと  
の河川敷で奉納され大  
勢の人で賑わいます。



流鏝馬神事

この高津は上古から  
「高角」とも呼ばれ、  
現在の柿本神社のある所も「高角山」とも呼ばれ  
ていました。人麻呂が詠んだ歌「石見のや 高角  
山の木の間より 我が振る袖を 妹みつらむか」  
の『高角』の名称から付けられたとされており、  
『人丸さん』と地域から親しまれる柿本人麻呂と  
同じように地域に親しまれています。

また、この高角橋は全国的にも大規模でかつ島  
根県で唯一の鉄筋コンクリートローゼ桁で、清流  
日本一の高津川に白く映える5連のアーチが美し  
い橋として地元住民に愛されています。平成23  
(2011)年11月には土木学会選奨土木遺産に認定  
され、地元ではこの橋の文化的価値の再評価や街  
づくりへの活用などの取り組みが行われています。



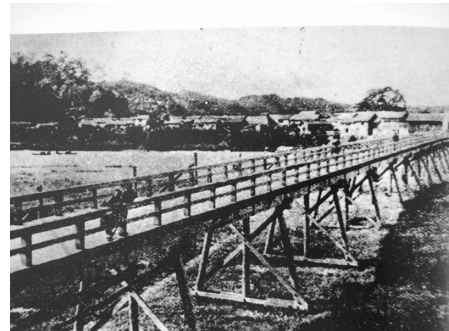
高角橋（高津側より望む）

## 高角橋の歴史

明治まで高津川には橋がなく、渡船舟運で結ば  
れていました。高津川における舟運は、津和野藩  
が行った河道変更改修により非常に栄えた記録が  
残されています。幕末における舟の数は横田18  
隻、高津41隻（渡船専用含める）と多くの舟があ  
りました。高瀬舟と呼ばれ、長さ6.3m、幅0.7m  
でカヌーに似た軽快な船でした。しかし、この舟  
運も大正12（1923）年山口線の開通とともに影を

ひそめていったようです。

明治25（1892）年、初代の高角橋が架けられま  
した。当時は木造橋でした。高津川は古来より反  
乱を繰り返しており、高角橋架橋後も度重なる洪  
水により、橋梁流出の憂き目にあい多額な費用で  
復旧されました。



大正7年の高角橋

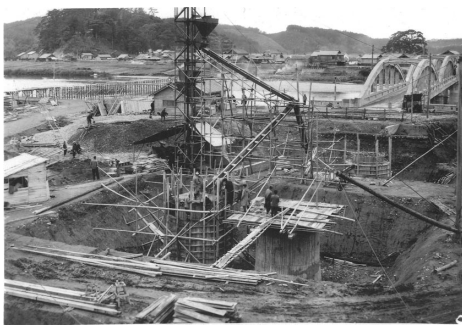
大正8（1919）年7月洪水を契機に島根県営に  
よる高津川改修工事が昭和7（1932）年から昭和  
11（1936）年の5カ年の期間を要し完成されまし  
た。改修区間は河口から上流匹見川合流点付近の  
延長13.3km、計画川幅150～206m、計画洪水量  
2,780m<sup>3</sup>/s、改修工費130万円を要しました。

高角橋は、大正10（1921）年に工費4万1,000  
円を投じ改築されましたが木橋のため腐朽が甚だ  
しくなり、昭和11（1936）年7月に本橋が撤去さ  
れ下流に仮橋が架けられました。その後新式の永  
久橋（鉄筋コンクリート製）の架設が決まり、昭  
和17（1942）年に現在の5連鉄筋コンクリートロ  
ーゼ桁橋が完成しました。

昭和18（1943）年9月、未曾有の大洪水により  
昭和7年以降整備された堤防、護岸等の施設が余  
すことなく被害を受けました。新しくなった高角  
橋は流出を免れたものの、この橋が堰<sup>せき</sup>となり上流  
付近の堤防を決壊させる要因となりました。災害  
復旧工事が昭和18（1943）年から昭和23（1948）  
年にわたって大規模に行われましたが原型復旧を  
基本としており、地区住民の水禍への不安が払拭  
されず抜本的な改修工事要望が大々的にされ、こ  
れが認められました。昭和24（1949）年から昭和  
27（1952）年までの継続事業で建設省高津川改良  
工事として始められました。

この改良工事は、計画洪水流量4,200m<sup>3</sup>/sとして、河床掘削、築堤、護岸整備等を主として実施されました。

この工事の中で、高角橋架橋地点周辺である須子地内の右岸堤防を70m後退させ、川幅を拡張させることとなり、高角橋の延長が必要となり橋長195mに66m継ぎ足して261mとしました。橋梁の継ぎ足しは、3径間ゲルバー桁橋で行いました。また、5径間の橋桁を油圧ジャッキを用いて1.1~1.6m持ち上げるといった、当時としては空前の大工事が行われ昭和27(1952)年に完成しました。



高角橋継ぎ足し工事（昭和26～27年）

さらに、歩行者の安全性確保のため、昭和43(1968)年に側道橋（歩行者用橋梁）を上流側に付け足し現在に至っています。



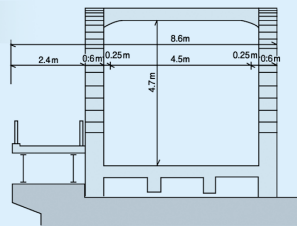
高津橋（須子側より望む）

平成25(2013)年4月現在、高角橋は齢71を数えるにいたりましたが、いまだ主要な道路として1日当たり約5,400台の車両と約400人以上の歩行者が利用しています。

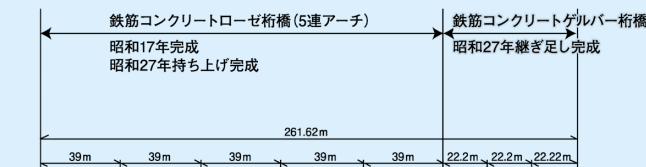
昭和9(1934)年に設立された出雲製織石見人絹工場の煙突とともに高津川河口の原風景といえるこの橋を今後とも大切に使い続けていきたいと思ひます。

### 高角橋の諸元

橋梁形式.....(本橋)鉄筋コンクリートローゼ桁橋  
(継ぎ足し部)鉄筋コンクリートゲルバー桁橋  
橋長.....全長261.62m  
うち 鉄筋コンクリートローゼ桁橋195m  
ゲルバー桁橋66.62m  
道路管理者.....島根県  
道路幅員.....(車道部)車道4.5m+路肩0.5m=5.0m  
(歩道部)2.0m



橋梁断面図



橋梁側面図

### 【問い合わせ先】

島根県益田県土整備事務所

TEL 0856 31 9633

FAX 0856 31 9701

[http://www.pref.shimane.lg.jp/masuda\\_kendo/](http://www.pref.shimane.lg.jp/masuda_kendo/)

### 【益田市ホームページ】

<http://www.city.masuda.lg.jp>

